

口語短歌と書の二人展を開いている小泉さん、照井さん(左から)



短歌の言葉と文字が調和し、彩り豊かな絵が浮かぶ

小泉さんと照井さんがコラボ

二人は10年ほど前から共同で作品を発表し、マママでの展示は3回目。10日午後2時半からは朗読ライブも予定している。

「現代の風景を、現代の言葉で表現する。照井さんの字があるから短歌も生きてくる」と小泉さんは言う。

生活に身近な開運橋や北上川、草花や人との交流を詠む。「開運橋旅立ちの朝川岸に手を振っている柳のみどり」をはじめ春夏秋冬の開運橋を詠んだ四部作も。

孫からバレンタインデーのチョコレートを受け取った際には「列教した聖バレンタインにあやかって手にするチョコをじいちゃんに」とユーモアたっぷりの「雪の下の土の炬燵(たたき)」によろそつて球根たちのハミングつたつ、「月なまてさみしかつたら月見草きいろい涙いっばいためて」。自然の事物に豊かな想像力と温かなまな

詩情香り立つ色紙たち

15日まで 喫茶マママで26点を展示

「小泉とし夫口語短歌／てるいけん書・色紙展」は15日まで、喫茶マママ(盛岡市本町通り1の8の10)で開かれている。北寮文学会の小泉とし夫さん(94)＝盛岡市開運橋通り1の口語短歌を、カフェジャズ開運橋のジョニー店主の照井顕さん(74)＝同一が独特の温かみのある字で色紙にしたためる。穏やかに情景の浮かぶ26点を楽しむことができる。

さしを向け、喜びをもたらして詠い上げる。

あえて利き手と逆の左手で筆を持つて書く照井さんは「どこに線が行くか分からない」と苦笑。柔軟で優しい雰囲気と優しい文字が、小泉さんの作品の世界を深める。今回は12Bの濃い鉛筆で文字を録取る

表現も見せる。照井さんは「毎回同じでは面白くない。力を入れて彫るよつに書き、光によつても見え方が変わる」と目を細める。

画廊喫茶の同店で、開運橋の同店で、詩歌の展示は珍しい。小泉さんは「照井さんの書によると作品が絵になる。絵の上つた書、それでいい。詩情と書がマッチしている、そのコラボレーションを見てほしい」と朗らかに勧めた。

午前11時から午後9時まで。日曜定休。